

大学入試のしくみを学ぼう

— 制度を正しく理解し、戦略的に活用したい —

志望校に合格するためには、教科の勉強だけでなく、「大学入試のしくみ」など、進路に関する正しい知識を持っていることもかなり重要です。長期計画で準備していくことが大事なのです。

なお、1年生からは、現行のセンター試験が廃止され、新しく「大学入学共通テスト」が導入される予定です。今後、発表される情報には十分注意してください。

特集 大学入試に関するQ&A



*以下は、2年生までが受験する「現行の大学入試制度」を中心とした解説になります。

Q：国公立大学の合否はどのように決定するのですか？

A：国公立大学志望の場合、各大学が独自に実施する個別試験（「**二次試験**」）の前に、一次試験として、**マークシート方式の「大学入試センター試験」**を受験しなければいけません。大学によって科目の配点が異なります（これを「**傾斜配点**」と言う）。そして、センター試験後の自己採点の結果を基にして、二次試験を受験する大学を決めて出願します（これを「**二次出願**」という）。また、一次試験であるセンター試験の点数と、「二次試験」の点数の合計によって、合否が判定されます。

Q：「センター試験」は何科目を受験しなければならないのですか？

A：多くの国公立大学の場合、「**5教科7科目**」以上を受験しなければいけません。また、各科目の選択は、二次試験に出願する各大学が指定する科目から選択しなければいけません。

[文系学部] 国語、英語（筆記＋リスニング）、数学①（I・A）、数学②（II・B）、基礎理科2科目（本校では生物基礎・地学基礎の2科目）、社会2科目（地歴（世界史B・日本史B・地理B）から1科目＋公民（現社、政治経済、倫理、倫理政経）から1科目が一般的）

[理系学部] 国・英・数は文系学部と共通 理科が2科目（本校では化学＋物理または生物の2科目）、社会が地歴・公民から1科目の選択

Q：私立大専願の受験生もセンター試験を受験する必要がありますか？

A：国公立大学だけでなく、私立大学の中にもセンター試験の得点を合否判定に利用する大学が増加しています。文系学部なら、国語、英語（筆記＋リスニング）、地歴・公民1科目、理系学部なら、数学①②、英語（筆記＋リスニング）、理科1科目以上が一般的です。

それゆえ、センター試験は大学受験を目指すほとんどすべての人が受験するものです。橋高校でも、毎年、300名以上が受験しています。

Q：センター試験の成績は、すぐに自分で確認することができるのですか？

A：出願時に「**成績開示請求**」をすることは可能です。しかし、成績開示は、次の年度になってから行われるので、センター試験直後に、自分の本当の成績を確認して「**二次出願**」をすることはできません。あくまで、センター試験直後の「自己採点」の結果を信じるしかないのです。

Q：国公立大学の二次出願はどのように行われるのですか？

A：まず、センター試験の翌日に自己採点を行います。結果はすぐに、ベネッセや河合塾等へ送り、志望校の合格可能性を分析します。その後、この分析結果とこれまでの模試の成績や各大学の二次試験科目などを基にして、「**二次出願先**」を検討します。そして、前期日程・（中期日程）・後期日程で受験する大学を1校ずつ決定し、全日程を同時に出願します（出願後の変更はできない!）。

Q：前期日程で合格した場合も、後期日程を受験することはできますか？

A：前期日程で合格した場合はすぐに入学手続きを行い、手続き後は後期日程を受験できません。前期日程の合格発表後、後期日程前の所定の期間に入学手続きをしないと、合格の権利を失うことになってしまいます。ゆえに、第一志望の大学は前期日程で受験します。後期日程は、前期不合格者だけが受験する「敗者復活戦的」な存在です。

また、私立大学等が合格すると、後期日程の受験をやめてしまう者も多いので、欠席率は高くなります。ゆえに、後期日程まであきらめずに受験を続ければ、国公立大合格のチャンスは大きくなるのです。昨年度も、多くの先輩が後期日程まで挑戦し、25名の合格者を出すことができました。これは大変すばらしい結果です。ぜひ、後輩たちにもこの姿勢を受け継いでほしいと思います。

2019年度 国公立大入試の日程

・1/19（土）・20（日）	センター試験（「一次試験」）	*出願は10月上旬
↓		
・1/21（月）	自己採点日 ⇒採点結果を分析に出す ⇒3日以内に結果が届く	
↓	面談等を行い、「二次出願先（前期・後期（中期、独自日程）」を決定	
↓		
・1/28（月）～2/6（水）	二次出願	*全日程を同時に出願 出願後の変更は一切できない
↓		
・2/25（月）～	前期日程試験	
↓		
・3/1（金）～10（日）	前期日程合格発表	[合格者] 3月15日までに入学手続き（→ 受験終了!）
	[前期不合格者]	
↓		
・3/8（金）～	中期日程試験	
・3/12（火）～	後期日程試験	
↓		
・3/20（水）～24（日）	後期・中期日程合格発表	



Q：私立大学入試のしくみは？ 何校受験できるのですか？

A： 私立大学の「一般入試」の場合、大きく分けて以下の3つの方法があります。

- ① 大学独自の入試を実施する方法
- ② センター試験の点数を利用する方法
- ③ センター試験の点数と独自試験の合計を利用する方法

①の大学独自の試験では、3教科以下で行われることが一般的で、記述式試験に加えマークシート試験を採用する大学もあります。また、同じ学部・学科の試験を、複数回に分けて行うことも一般的です。大学の本拠地だけでなく、仙台、郡山などで「地方受験」を行う大学も増えています。

②の「センター試験利用入試」の場合、センター試験を受験するだけで、大学の合否結果が届くので、たいへん手軽な方法ですが、その分、高得点でないと合格は難しくなっています。

また、私立大学では、日程が重ならない限り、何校でも受験可能です。ただし、合格後は、一定期間内に、高額な費用（入学金＋前期授業料）を納入しないと合格が無効になる場合があります。ゆえに、受験校は、受験日と手続き締切日を考慮して計画的に選ばなくてはなりません。

Q：「外部英語検定」を利用する入試とはどのようなものですか？

A： 近年、大学入試の英語科目に替わる試験として、英検などの「英語外部検定」が注目されてきていて、外部検定を一般入試に利用する大学は100大学以上となり、年々増加しています。

外部検定の利用の方法としては、①国公立大、私立大ともに、推薦・AO入試や一入試の「出願資格」として用いる場合、②「得点換算」や「加点」に用いる場合があります。いずれにしても、高い英語能力を持つ生徒を優遇する傾向が強まっています。ゆえに、3年生までに、「英検2級」を取得しておくことを勧めます。



Q：「推薦入試」とはどんな入試ですか？

A： 「推薦入試」には、「公募推薦」と「指定校推薦」の2つがあります。「公募推薦」は、どこの高校からも出願でき、「指定校推薦」は、大学から指定された特定の高校だけが出願できます。どちらも、原則として、「出身学校長の推薦」が条件の1つです。また、調査書の「評定平均（3年間の全科目の平均）」の基準があるのが主で、国公立大の場合、4.0以上が目安になります。

選考方法は、国公立大では「センター試験を課す方法」と「課さない方法」があります。両者ともに、「書類審査」と、「小論文・総合問題（英文読解を含む）、面接が課されることが主となります。志望動機や将来の目標などを具体的に説明することが求められ、さまざまな質問に柔軟に対応できるコミュニケーション能力が評価されます。大学によっては口頭試問（英数理など）も含まれます。

Q：「AO入試」とはどんな入試ですか？

A： 「AO入試」は「アドミッション・オフィス入試」を略したもので、「自己推薦」が基本です。出願条件として、調査書の評定平均値の基準が無いことも多く、選考方法は調査書・志望理由書（エントリーシート）・活動報告書などの「書類審査」と「面接」が主です。また、大学の講義やセミナーに参加し、その後にレポートなどを課すパターンや、小論文や基礎学力試験を実施したり、東北大学のAOⅢ期入試のように、センター試験の点数を利用したりする大学もあります。

Q：どのような人が「推薦・AO入試」に向いているのですか？

A： 学業成績の評定平均が高いほど有利ですが、それに加え、自分がその大学で学びたいことが明確で

あるということが大切です。そして、自分の考えを、相手に伝えることができる「コミュニケーション能力」や「表現力」が求められます。さらに、部活動や生徒会活動、ボランティア活動、学校外での各種の研修活動などで活躍してきた人も、自己PRの材料をたくさん持っているという点で有利と言えます。さらに、遅刻・欠席・早退の数が少ないことも大切です。

ただし、簡単に合格することはできません。周到な準備が必要で、貴重な勉強時間が割かれてしまいます。また、不合格となった場合は、そのショックで一般入試にも影響が出ることもありえます。こうしたリスクを伴うため、全員に勧められるものではありません。自分にとって有利な試験であると判断でき、多少のことではくじけないタイプの人ならば、挑戦する価値は大きいと言えます。

* 橘高校で推薦入試を受ける際の「出欠状況」に関する条件

高校3年間の欠席・遅刻・早退がいずれも15回未満（14回まで）であること

Q：「推薦・AO入試」の重要さが増していると言われるのはなぜですか？

A： 国公立大学では、後期日程の廃止と、それに伴う「推薦・AO入試」の定員枠の拡大が進んでいます。今後は募集定員の3割まで拡大する方針です。これらは、一般入試の定員の削減につながるため、全員にとって大きな問題です。ゆえに、「推薦・AO入試」の存在価値は年々大きくなっていると言え、これらの入試制度を有効に活用していくことは本校生にとっても、たいへん重要です。

◇ 東北大学 AO入試に注目！

東北大でも、経済学部と理学部を除いて後期日程が廃止され、AO入試の定員枠を拡大する方針です。一方、前期日程の定員は削減されていくので、AO入試を利用しなければ明らかに不利です。東北大のAO入試には、AOⅡ期とⅢ期という2回の試験があります。

[AOⅡ期]

センター試験を利用しないタイプです。今年度からは新たに、法学部でも実施されます（前期の定員は減少）。工学部、理学部、農学部では、小論文の内容が、数学、理科、英語が中心の試験なので、一般入試に向けての勉強で対応が可能です。特に理系学部の希望者にはお勧めです。

[AOⅢ期]

センター試験を利用するタイプで、自己採点后に出願できます。そのため、前期日程合格者よりもセンター試験の得点率が高くないと合格できません。今年度からは新たに、文学部と理学部（数学科除く）でも実施されます（前期の定員は減少）本校では、昨年度、この方式を利用して、医学部保健学科の看護で1名が、一昨年は、経済学部1名、工学部1名が合格しています。

Q：現1年生からの「大学入学共通テスト」とはどのようなテストですか？

A： 現行のセンター試験は2020年1月の実施を最後に廃止され、これに代わり2021年から導入されるのが「大学入学共通テスト」です。現1年生からこのテストを受験することになります。現在からの大きな変更として、これまでのセンター試験になかった「記述式問題（国・数）」の導入と、英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を評価することが挙げられます。

また、「知識・技能」以上に、「思考力・判断力・表現力」を評価するテストとなるよう出題内容について検討が進められています。昨年から実施されている「試行テスト」の実施問題等を見る限りでは、現在のセンター試験と比較して難易度の高い問題の出題になっていくと予想されます。これまでに、自らよく考え、主体的に学ぶ姿勢が大事になってきます。なお、英語4技能については、今年度から、「4技能外部検定試験」を1年生全員で受検する等、計画的に実力を養成していきます。